

令和7年度 学校評価自己評価表【中間】

令和7年10月17日

廿日市市立平良小学校

中期経営目標		短期経営目標	分掌	目標達成のための方策	評価項目 指 標	目標値	中間	最終	評価	結果と課題の分析	コメント	改善方策
確かな学力	主体的に学ぶ児童の育成	学びに向かう意欲があり、基礎的な学力が定着している。 【重点項目】	教務・研究	児童が自分の課題と向き合い、見通しを持って学習に取り組むような活動の充実を図る。	【基礎的な学力の定着】 学期ごとの全てのテストの平均値(国・算)において、75%未満の児童と85%以上の児童の割合	75%未満 15%	国語:11.9% 算数:17.4% 平均:14.6%		A	○75%未満0.4%、85%以上9.8%目標値を上回った。(昨年度末75%未満11.0%、85%以上61.6%) 【教職員アンケート】単元末テスト・標準学力調査等において、75%未満の児童を15%以下にすることを意識し、個に応じた手立てを考え、授業を行っている。(90.5%) ・日々の授業において、教員の多くが、個に応じた支援を行いながら学習を積み重ねていると答えているが、算数科については、75%に満たない児童の割合が17.4%と、目標値を下回っている。日々の学習の中で、学習の内容が理解しきれていない児童がいると考えられる。 ・全てのテストを対象にしたことで、日々の取り組みについて評価できているが、学習内容が本当に定着しているかについてもまとめのテストや標準学力調査等を利用して検証する必要がある。	○授業の様子を見て、協働的な学びが進んでいることを感じた。 ○「問いを重視した単元の工夫」「協働的に考えを深める学習の工夫」ともに進んでいる。特に、話しやすい雰囲気醸成は各学級でよくできている。今後、問いの工夫をすることで、深い話し合いができればよい。 ▲塾へ行く児童が多いと聞く。学校でも鍛えようによってはもっと伸びるのではないかと？ ○授業に集中している児童の姿があった。子供は先生が好きだとその教科の成績が上がる。先生が元氣じゃないと、子供も元氣にならない。 ▲宿題の内容について。家でスマホで調べてそれを写すことをやっている。それでよいのか？という思いがある。 ○先生たちの個別指導の努力で学力定着の達成度が高くなっている。⇒▲教職員の時間外勤務増や健康維持について心配。 ▲児童の学習への興味関心に与える影響について、要因を検討する必要がある。	・夏の職員研修で、学年ごとに必ず身に付けさせる力の設定を行った。確実な定着を図るため、家庭学習や授業時間を使って反復練習を行い、75%未満の児童の引き上げを図る。 ・授業内で学び合いの時間を設定したり、個に応じて課題を出したりして、確実に力をつけていく工夫を行う。 ・学年末のまとめのテストで学習が定着しているかについて検証を行う。
						85%以上 60%	国語:74.5% 算数:65.1% 平均:69.8%		A	○85%の目標値を①3.3%②3.7%上回った。(昨年度末①92.3%②88.2%) ・昨年度末に比べて①4.0%下回っており、②0.5%上回っている。 【教職員アンケート】児童が、自分の考えをもったり進んで学習に取り組んだりするような指導や授業の工夫をしている。(90.4%) ・昨年度より数値が下がった。6学年の全国学力テストの質問紙で、教科学習の必要性は感じるが、学習は好きではないと答えた児童が多いことが課題として挙げられており、学習そのものに対する主体性が下がっていることが考えられる。 ・教員が児童が学びたいと思えるような課題の設定を行ったり、学び方や学ぶ内容を選択できるようにしたりと主体性を引き出す工夫を行っているが、児童の「学習への意欲・楽しさ」につながらっていない可能性が考えられる。		・引き続き、校内の研究の視点に合わせながら学び方や課題を選択できる場面を設定したり、協働的に考えを深める中で、主体性を引き出し、達成感を味わえるようにしたりする。 ・社会科の研究を深め、学習内容を生活や社会と関連づけ、学ぶ意味や活用の場面を実感できるようにする。 ・教材研究や教員同士の授業研究を通して、主体的に学んでいる姿を共有・分析し授業改善に生かす。
					【主体性】 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む児童の割合 ①全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙:6年生対象 ②児童アンケート:全学年対象	85%	①88.3 % ②88.7%		A	○85%の目標値を①8.3%②7.8%下回っている。教職員の取組も8割にとどまっている。 【教職員アンケート】児童が問いを立てたり、自己の学びを振り返る学習場面を設定したりしている。(81%) ・児童自ら問いを立て、主体的に解決しながら学びに向かえるように、社会科を中心に、問いを重視した単元計画を工夫し、取り組んできた。 ・昨年度からの取組であるので、内容的には昨年度より深まっていると感じているが、その分求めるものが大きくなり、それに対して児童の自己評価が下がってきていることも考えられる。 ・振り返りに関しては、その意義などの確認はしているが、取組内容は各担当が工夫して行っている状況である。		
					【課題の設定・自己調整】 ①「問いを立てながら学習に取り組むことができた。」と答えた児童の割合 ②「自分の学びを振り返りながら考えを深めることができた。」と答えた児童の割合	85%	①77% ②78.1%		B	○85%の目標値を2.8%下回った。(昨年度末93.6%) ・昨年度の評価項目は、「話し合いやタブレット」であったため、焦点化するために、今年度「話し合い」に限定した。昨年度の回答は、「タブレットを使うことでよりよい考えに気付く」と回答した児童が多かったことが考えられる。 ・対話タイムや授業で対話の時間を設定し、対話する楽しさを味わわせたり、聞き合うことで新たな気付きを得たりする機会をもつように取り組んできた。【教職員アンケート】児童同士に話し合いをさせ、多様な視点や考え方の広がりを実感できるようにしている。(90.5%) ・対話を推進するためには、「安心して対話できる学級経営」が土台であることを全体で確認し、まずは、相手の話を反応しながら受容的に聞けるように、反応の仕方の型を示したり、目指す対話の姿を児童と共有する時間(朝会)を設けたりした。		
豊かな心	規範意識を向上させ、友達と高まり合う児童の育成	自分の考えをもち、説明する力が身に付いている。 【小・中学校共通項目】	生徒指導	対話を通して、児童が他者と協働しながら学びを深めるような授業改善を推進する。	【協働的な学び】 「友達との話し合いで、よりよい考えに気付くことができた。」と答えた児童の割合	85%	82.2%		B	○85%の目標値を2.8%下回った。(昨年度末93.6%) ・昨年度の評価項目は、「話し合いやタブレット」であったため、焦点化するために、今年度「話し合い」に限定した。昨年度の回答は、「タブレットを使うことでよりよい考えに気付く」と回答した児童が多かったことが考えられる。 ・対話タイムや授業で対話の時間を設定し、対話する楽しさを味わわせたり、聞き合うことで新たな気付きを得たりする機会をもつように取り組んできた。【教職員アンケート】児童同士に話し合いをさせ、多様な視点や考え方の広がりを実感できるようにしている。(90.5%) ・対話を推進するためには、「安心して対話できる学級経営」が土台であることを全体で確認し、まずは、相手の話を反応しながら受容的に聞けるように、反応の仕方の型を示したり、目指す対話の姿を児童と共有する時間(朝会)を設けたりした。	○自己有用感が高い。児童が企画・運営する経験の場を設けることはとても良い。 ○あいさつのアンケート結果が85%を下回っているが、子供たちはよくしていると思う。 ◆中学校に上がって子供たちがどう変化しているかを見てもらいたい。 ○あいさつ名人の取組、大切なこと。仲間同士の人間関係構築のためにあいさつは重要。引き続き取り組みを。	・研究の視点の1つとして、「問いを重視した単元計画の工夫」を挙げて取り組んでいる。 ・児童が「問い」や「問いの立て方」を意識できるように、朝会で分かりやすく示し、日々の授業とつなげる。 ・全校や学年で振り返りの視点をそろえたり、単元内で毎時間の振り返りを1枚にまとめて、児童自身が課題や成長を感じ、学びにつなげていけるようにしたりするなどする。
				対話を通して、児童が他者と協働しながら学びを深めるような授業改善を推進する。	【協働的な学び】 「友達との話し合いで、よりよい考えに気付くことができた。」と答えた児童の割合	85%	82.2%		B	○85%の目標値を2.8%下回った。(昨年度末93.6%) ・昨年度の評価項目は、「話し合いやタブレット」であったため、焦点化するために、今年度「話し合い」に限定した。昨年度の回答は、「タブレットを使うことでよりよい考えに気付く」と回答した児童が多かったことが考えられる。 ・対話タイムや授業で対話の時間を設定し、対話する楽しさを味わわせたり、聞き合うことで新たな気付きを得たりする機会をもつように取り組んできた。【教職員アンケート】児童同士に話し合いをさせ、多様な視点や考え方の広がりを実感できるようにしている。(90.5%) ・対話を推進するためには、「安心して対話できる学級経営」が土台であることを全体で確認し、まずは、相手の話を反応しながら受容的に聞けるように、反応の仕方の型を示したり、目指す対話の姿を児童と共有する時間(朝会)を設けたりした。		
豊かな心	規範意識を向上させ、友達と高まり合う児童の育成	基本的な生活習慣・学習習慣が身に付いている。 人のためになる活動を通して自己有用感が高まっている。 【小・中学校共通項目】	生徒指導	礼儀や規律など、社会生活で必要な生活習慣の質的向上を図る取組を推進する。	【社会的な生活習慣の質的向上】 「自分のあいさつのレベルが向上している。」と答えた児童の割合	85%	83.4%		B	○「自分のあいさつのレベルが向上している」と答えた児童の割合は83.4%だった。 ・ベア学級での挨拶運動を通して、人数が増えることで活気が出た。 ・あいさつ名人の取組を通して、自分の目標レベルを設定することで、今の自分の状況や目指す姿を具体的に捉えることができる児童が増えた。振り返りで自己評価をすることに加え、生活委員会からの評価をもらうことにより、意欲向上に繋がっている。あいさつをしているのに自己評価が低い児童に対しては、肯定的な評価が必要である。	○自己有用感が高い。児童が企画・運営する経験の場を設けることはとても良い。 ○あいさつのアンケート結果が85%を下回っているが、子供たちはよくしていると思う。 ◆中学校に上がって子供たちがどう変化しているかを見てもらいたい。 ○あいさつ名人の取組、大切なこと。仲間同士の人間関係構築のためにあいさつは重要。引き続き取り組みを。	・引き続きあいさつ名人の振り返りを行い、あいさつに対する意識向上を目指す。 ・月1回、望ましいあいさつができた児童を選出し、生活委員会からの放送で表彰をしていく。学級全体でもあいさつを頑張っている児童に肯定的評価をしていく。
				「貢献する」ことのよさや大切さを実感できるような活動や評価を充実させる。	【貢献することによる自己有用感の向上】 「みんなの生活をよりよくするために進んで行動することで、人の役に立っていると思う。」と答えた児童の割合	85%	88.7%		A	○「みんなの生活をよりよくするために進んで行動することで、人の役に立っていると思う。」と答えた児童の割合は、88.7%だった。 ・委員会朝会を行うことで、各委員会が全校に伝えたいことを伝えることができたり、みんなで取り組んだりすることができた。委員会のコラボ企画にも挑戦し、みんなで活動する機会が増えた。 ・各学級での係活動もみんなのことを考えて自主的に活動する姿が見られた。 ・いろいろな場面で活躍している児童が多いが、自己有用感が高くない児童もいるため、積極的な評価を行い、自己有用感を高めていきたい。		
健康な体	心身の健康や安全な生活に向けて、考え行動する児童の育成	危険を避け、安全に過ごすための適切な判断力が身に付いている。 心身の健康につながる活動を実践している。	健康教育	デジタルシティズンシップ教育を推進する。	【デジタルの自律的有効活用について】 チャレンジウィズメディアの結果で「自分のチャレンジレベルを3日間以上達成した。」と答えた児童の割合	87%	87.1%		A	○チャレンジウィズメディア週間で「自分のチャレンジレベルを3日間以上達成した」と答えた児童は87.1%だった。 ・チャレンジウィズメディア週間に保健委員会によるウィズメディアニュースを放送することで、メディアとの上手な付き合い方の具体的な方法や長時間のメディア利用が起こす影響を知る機会になったと考えられる。	○デジタルの自律的有効活用について、チャレンジレベルを自分で選ぶことで、自分事になっていると思う。 ◆ここところの暑さで運動ができていないのは、致し方ない面がある。 ▲「主体性」が問題ならば、どうすれば運動が増えるか子供たちで話し合い、アイデアを出してもらうこともよいのでは？ ▲視力の低下もあるのではないか？ウィズメディアの期間がもっと長ければよい。	○第2回チャレンジウィズメディアの実施に向けて、保健委員会を中心にウィズメディア標語の発表を行う等、啓発活動を推進することで、チャレンジウィズメディアに取り組むことへの意欲を高めるとともに、規則正しい生活習慣を送ることへ意欲も高める。
				運動することへの意欲向上を図る授業や活動を推進する。	【運動の能力に関する課題の把握】 「新体力テストの結果をもとに、自分の運動に関する課題を見つけ、目標を持つことができた。」と答えた児童の割合 【主体的に運動を行うこと】 「体育科の授業や大休憩・昼休憩などに進んで運動することができた。」と答えた児童の割合	90%	85.9%		B	○体力向上ステップアップカードの活用が今年2年目になり、児童も担任も意識して取り組む割合が増えた。		○児童が自分の体力テストの結果から、記録を向上させたいという意欲や、運動課題を見つけていくというカードの活用の活用について引き続き、活用をうながしていきたい。 ○昨年度に続き、委員会活動によるクラス対抗スポーツ大会や、休憩時間に体育館を利用しての遊びを実施する予定である。 ○秋になり、涼しくなってきたら、しっかり運動することを周知したい。
				運動することへの意欲向上を図る授業や活動を推進する。	【主体的に運動を行うこと】 「体育科の授業や大休憩・昼休憩などに進んで運動することができた。」と答えた児童の割合	85%	66.1%		C	○外遊びは難しかったが、体育館の使用がクラス毎に割り当てられ、児童が意欲的に運動する姿が見られた。 ○暑くて、外で遊んだり体育の授業をしたりすることが難しかった。		

「評価」の項目については、「達成度」は「報告期の数値／目標値」である。「目標値」に対する「達成度」をA～Dで評価する。(A:100% B:80%以上 C:60%以上 D:60%未満)